

二松学舎大学 佐藤 一樹氏

○平成八年度大塚漢文学会大会

六月二十九日(土)

於 湯島聖堂

〔研究発表〕

一、浙東史学の展開―章学誠を中心に

筑波大学大学院 松崎 哲之氏

一、天の統治―甲骨文にみられる法思想の原型

文教大学 菅本 大二氏

一、李商隠と牛李の党争について

調布学園女子短期大学 加固理一郎氏

一、元結の「春陵行」と「賊退示官吏」について

千葉大学 加藤 敏氏

一、朱彝尊の「齋中読書十二首」について

下関市立大学 谷口 匡氏

一、阮籍の形象について

福岡大学 甲斐 勝二氏

一、陶淵明「飲酒」詩考―特に「其五」の詩を中心として

文教大学 沼口 勝氏

〔漢文教育シンポジウム〕

漢文教育は可能か？

●発表者

愛知教育大学 北村 良和氏

●コメント

筑波大学 堀池 信夫氏

●司会

茨城大学 上田 武氏

筑波大学 細谷美代子氏

〔総会〕

一、開会の辞

棚木光雄氏を議長に選出

望月 委員

二、議長選出

三、委員長挨拶

伊藤委員 長

四、諸報告

庶務

伊原 委員

企画

会報編集

宮内 委員

五、議事

平成六年度決算

平成七年度予算

大塚 委員

会則・学会名称変更について

その他

大塚 委員

六、閉会の辞

○月例会

望月 委員

平成八年十一月十六日(土)

於 筑波大学学校教育部

一、黄老帛書の成立について

筑波大学大学院 渡辺 大氏

一、動詞句直前に現れる「給」の文法機能

筑波大学 佐々木勲人氏

平成九年五月三十一日(土)

於 筑波大学学校教育部

一、法政大学蔵「正岡子規文庫」の漢籍について

東京女子大学 安藤 信廣氏

住所 勤務先等に変更のあった方は、事務局(〒305茨城県つくば市

天王台1-1-1、筑波大学文芸・言語学系内)宛御一報下さい。

大塚漢文学会々則

- 一、本会は大塚漢文学会と称する。
- 二、本会は漢文学及び漢文化教育の研究と普及とを図ることを目的とする。
- 三、本会の会員は左の通りである。
 - 1、旧東京教育大学漢文学会々員であつて参加を希望する者
 - 2、その他入会を希望する者
- 四、本会の主な事業は左の通りである。
 - 1、総会 年一回
 - 2、例会 年約三回
 - 3、学会誌及び会員名簿の発行
 - 4、その他必要な事項
- 五、本会の役員は左の通りである。
 - 1、委員長 一名
 - 2、委員 若干名
 - 3、編集委員 若干名
- 六、役員の任務
 - 1、委員長は本会を代表し委員とともに運営にあたる。
 - 2、委員は本会の庶務・会計・企画を分担する。
 - 3、編集委員は学会誌の発行にあたる。
- 七、役員の選出及び任期
 - 1、委員長は委員の互選による。
 - 2、委員は会員の互選による。
- 3、編集委員は必要に応じて委員を委嘱することができる。

4、任期は二年とする。ただし重任は差し支えない。

八、会員は会費年額四千円を納める。

九、本会々則の変更は委員会の審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならない。

附則1、本会則は昭和五十四年六月二十三日より東京教育大学漢文学会々則に代つて発効する。

2、本会の事務所を当分の間筑波大学文芸言語学系中国文学研究室に置く。

以上

編集委員

(哲学・思想) 小林 信明・加賀 栄治・水沢 利忠

(文学・語学) 牛島 徳次・内山 知也・伊藤 虎丸

(漢文化教育) 鎌田 正・金子 泰三・田部井文雄

中国文 一九九七

平成九年六月二四日印刷
平成九年六月二八日発行

漢文学会会報五五号

編輯者 代表 高橋 均

印刷所

東京都千代田区神田神保町三十一〇
株式会社 共立社印刷所

電話(三三六)二〇二八
FAX(五三九)二八七八

発行所

茨城県つくば市天王台一―一―
筑波大学文芸言語学系内(〒三〇五)
大塚漢文学会